



釜無山カラマツの黄葉 静かな釜無山

前回の報告はまだ5月の雪が残る八ヶ岳でしたが、目の回るように忙しかった夏が終わり、山が最も華やかになる秋も過ぎ、冬か急ぎ足でやって来る季節になってしまいました。いつもながらの通信の遅れにただただ申し訳ありませんの一語です。今回は10月13日に行った釜無山(2116m)の報告をします。この山は南アルプスの前衛の人笠山の南側に位置し、林道やゴンドラができてちよつと賑やかすぎる人笠山に比べ、地味ですが静かな軽いハイキングが楽しめました。とくにカラマツの紅葉は素晴らしく、心静まる一時を過ごすことができました。

10月13日 午後1時30分に小淵沢のペンションを出発、八ヶ岳高原道路を下って国道20号・甲州街道に突き当たり

右折、約15分走り富士見パノラマスキー場入口の案内板のある交差点を左折します。この道を道なりにどんどん進むと25分ほどで入笠山の直下に

着きます。この道からの八ヶ岳の眺望は抜群で、さらに奥秩父や浅間山等が彼方に横たわっています。入笠山は直下まで舗装された林道が開かれていて、ゴンドラも出来ているので、夏などはかなりの車と人で、山登りというよりは観光地の趣が強い感があります。この入笠山に比べ、その隣の釜無山はあまり人も入らず静かなハイキングを楽しむことができました。甲州街道から入笠山への向かう林道を20分くらい、入笠山の手前5〜6分のところに釜無山への入口があります。路肩に10台くらいの駐車場があり、その向かいが大阿原湿原です。湿原は周囲2キロの遊歩道が整備され、夏にはニツ

コウキスゲ、コバイケイソウ、ヤナギランなどの花を楽しむことができます。2時15分、ここに車を止めて歩き始めました。あたりは笹とカラマツの明るい林でところどころにナナカマドが鮮やかに赤く染まっています。右手後方には人笠山がカラマツの黄色に彩られていました。始めの200mほどが舗装の道で、後は道幅の広い砂利道の林道が続きます。25分ほど歩くと伊那営林署の大きな標識があつて、このあたりからカラマツにシラビソが混じってきて、その特有の香匂が気持ちいい。コゲラでしょうか、

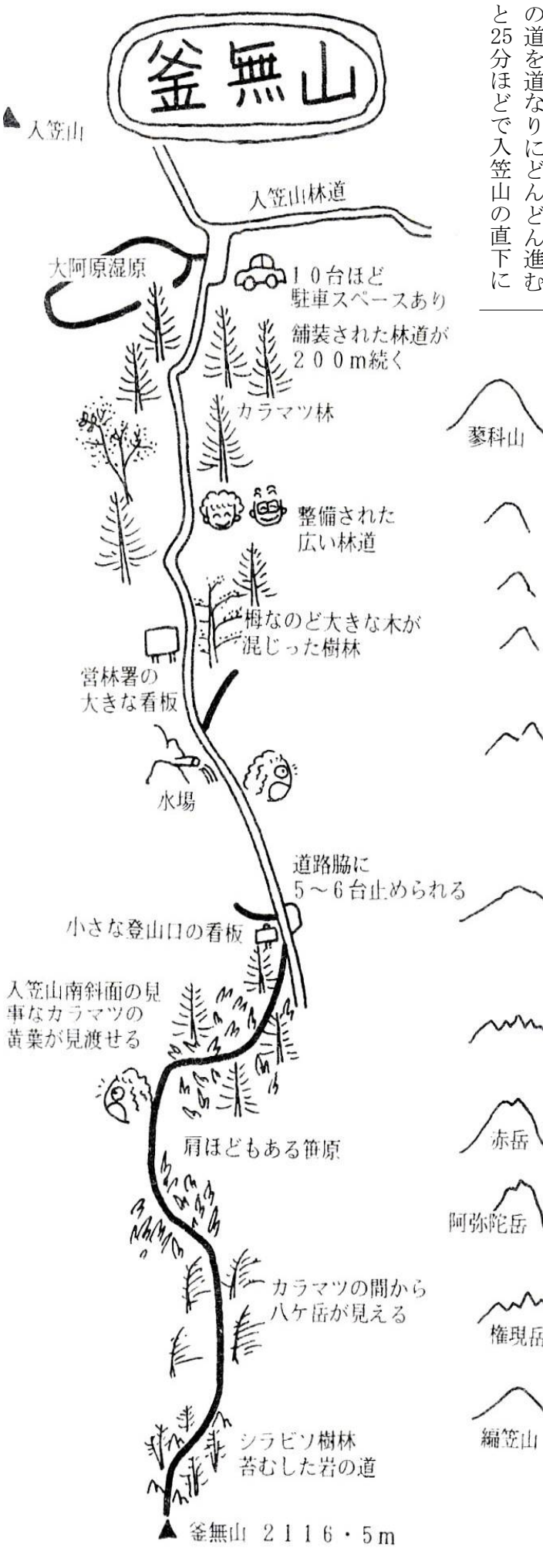
ジュツ、ジュツという鳴き声がしきりに聞こえます。営林署の標識から10分ほどで樹林の左側が開け、晴れていれば八ヶ岳などが眺望できそうな道に出ました。道の脇に勢いよく湧いている水場がありました。午後3時、小さな道標が立っている釜無山登山道と林道の分岐に着きました。ここから林道と分かれ、笹とカラマツの山道に入りました。分岐点には車4〜5台止められるスペースがありました。ここま

で車が入れますが、この林道もなかなか気持ちのよい道なので断然歩いたほうが良いと感じました。私たちが歩いたときはトラック1台しかすれ違わなかったもので、ほんとにゆつたりした気分ひたることができました。林道から分かれてすぐにクマザサの背が高くなって、背が低い私は顔に笹がかかって悪戦苦闘、夫が「ほら、ユガラが木を突ついているよ」と言われてもよく見えません。ここで下りてくる10人ほどの中高年のハイカーに出会いました。皆さんとても元気でい

気持ちいい林道



笹の海に沈む



(裏から続く)
つも励まされる私です。

10分足らずで入笠山から釜無山へ連なる尾根の少し西側の下側についた展望のきく道に出ました。ここからの展望はとても素晴らしいものでした。入笠山の南斜面から釜無山にいたる一面のカラマツ林が見事に赤みがかつた黄色に染まっていて、しばし記念撮影です。

しばらく進むとまたまた釜の海です。泳ぐように進むと稜線に立ち並ぶカラマツの間から、今度は八ヶ岳側が望めるようになりました。この時はちょうどガスもきれぎれになって、その間から八ヶ岳の南から北までをかいま見ることができました。



きつと風が強いのでしよう、このあたりのカラマツはみんな枝を東側に延ばして斜めになっています。

尾根道は絶景



途中、少し開けた場所が心ケ所あり眺めも素敵などころでお弁当に最適!!。この日

は先に山頂を目指しました。20分ほど尾根の下の道を進み、最後に落ち葉でふかふかの道を少し上るとシラビンと苔の道の先に狭い山頂がありました。午後3時45分、歩き始めてから1時間30分でした。山頂はわずかに木々の間から南アルプスの山々が望めました。が、ゆつくりできるスペースはなかったのて来た道引き返し、さきほどの展望のよいすこし開けた場所で遅いランチにしました。

帰路、入笠山の稜線の向こうに沈もうとする夕日の最後の輝きが紅葉のカラマツ林を鮮やかな黄金色に染めていました。日の当たっているところと陰っている所のコントラストがカラマツの紅葉を一層際立たせたものにしていて、心に残る山歩きになりました。

釜無山は、車を止め歩きはじめた所が標高1800mもあり、標高2116・5mの山頂との標高差が300m全コースがゆるやかな登りの道で、私の最も得意とする道でした。所要時間も往復3時間弱で、山登りというよりは軽いハイキングコースといった感じでした。カラマツの紅葉がとても素敵で、この時期の誰でも手軽に楽しめるハイキングコースとしていいな、と思いました。

悪戦苦闘 新米オーナー



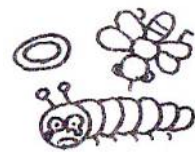
前号から半年近く経ってしまいましたが、私たちが目の回るようなドタバタの夏から秋の出来事を幾つか報告したいと思います。

いも太郎10兄弟 哀話

5月に実家の東京・八王子からサンショの木を2本持ってきて庭に植えました。7月初めごろだったでしょうか、ちいさな黒い虫が10匹ほど葉を食べているのに気がつきました。あまりきれいでないの嫌な気持ちでいたところ、蝶にとっても詳しい隣のペンションのオーナーが「それはアゲハの幼虫で3〜4回脱皮して青虫になるよ」といわれ、以後毎日朝彼らの成長を眺めるのが日課になりました。

オーナーの話のとおり、7月下旬ころに可愛い青虫に1匹づつ成長、いも太郎、いも二郎、いも三郎・・・と命名して楽しみに見守っていました。

ところが毎日数を数えているうち、どうしても数があいません。1匹たりない、2匹たりない・・・という日が続きました。そして、7月下旬のある日、衝撃の現場を目撃したのです。



黒と橙の斑の小さな蜂が、何倍も大きいいも四郎のお腹のあたりににじり寄ったと見るやガブツと噛みつきました。いも四郎は体をヒクヒクとさせ、あつというまに木から落ちてしまいました。隣のオーナー曰く「それは幼虫の体液を吸ってしまう蜂だ」と。



暗瀬とした気持ちになったその翌日、さらに衝撃の現場パート2を目撃したのです。今度はスズメでした。庭先の枕木で作った囲いの上でスズメがいも五郎をくわえブルンブルンと振り回し本に叩きつけているではありませんか。隣のオーナー曰く「最大の敵は蜂より鳥だ」。こうして、太郎が逝き、二郎、三郎と逝き、・・・そして「誰もいなくなった」のです。改めて自然の厳しさを教えられた思いでした。

でも8月になって、隣のオーナーが「去年まで見かけないカラスアゲハが飛んでいるから多分あの幼虫のひとつだよ」と嬉しい話。アゲハはサナギの時が一番危険なので、サンショの木からどこか隠れた場所に移動してサナギになることがある、と教えてくれ、なんかほっとした気分です。

クワニ郎 じっはクワ子

小淵沢から車で30分ほど甲府よりに明野村、韮崎市があります。ここはカブトムシやクワガタムシが好むクヌギの古い林がかなり残っていて、知る人ぞ知るカブト、クワガタのメッカです。

7月下旬、カブトやクワガタ採りに出かけました。カブト、クワガタは夜行性なので夕方出発、その出で立ちには長袖、長ぐつ、軍手、懐中電灯に虫籠と網です。早くも子供のころに帰った気分です。ウキウキ、林に着くや、クヌギのウロから蜜の出ているような所を懐中電灯で照らし、目を皿のようにして虫を探し始めました。いきました!



いました! かなり大きなクワガタが大きなクヌギの幹の裂け目をそのそ歩いていました。網を被せてゲット! この日はこの1匹だけでしたが、それでも真つ暗闇の中で、蛍も飛んできて、十分楽しい時間でした。

この大きなのはくわ吉と名付け、数日前に夫が採ってきた3匹(クワ太郎、クワ二郎、クワ三郎と命名)とともに、夏の間、我が家の人気者になりました。クワ吉は4匹の中では新参者ですが体が大きいので堂々として、クワ太郎も一目おいているよう。クワ二郎はどうも角が小さいと思っっていました。良く見るとそれは触覚で、翌日から「クワ子」に改名。クワ三郎はちよこまか一番運動量が豊富。それぞれ特徴があつて面白い。うまく育てれば、卵も生むそうですが、初めての経験でどうもうまく飼うことができません。だんだん元気がなくなってきたので、8月の半ばに森に帰してやりました。